

# ひょうご・ふるさとミュージアムプロジェクト

## キャラバンを基盤にしたプロジェクト

2002年度から本格的に始まった「ひとはくキャラバン」は、館員が県下各地に出張し、セミナーや展示活動などのプログラムを実施するもので、ひとはくの主要な活動の一つになっています。2012年には、移動博物館車「ゆめはく」が誕生し、効率よく学習プログラムを実施することが可能になりました。

一方で、県内でのひとはくの知名度はまだそれほど高いとはいえず、地域の方々とともにじっくり学習する機会もそう多くはありません。そこで、一定の期間、特定の地域に集中的に出かけていくことで、新たに地域との関係を築いていこうと、「ひょうご・ふるさとミュージアムプロジェクト」が2015年度に立ち上がりました。まだ埋もれている地域の魅力を、地域内外の方々と共に共有し、新たな関わりが生まれることを期待しています。



写真1 研究員による展示解説

## 淡路でのプロジェクトの試行

兵庫県には自然豊かで魅力的な地域がたくさんあります。多様な化石や海岸植物、多くのため池、ダイナミックな渦潮などで特徴づけられる淡路はその一つです。これまでのキャラバン先や県内での関係構築の状況を考慮し、検討を進めた結果、今年度より一定期間に渡り、淡路の自然の魅力をさらに発掘すべく、プロジェクトを試行することとなりました。

今年度はまず、南あわじ市の国立淡路青少年交流の家で開催された「淡路うずおフェスティバル」にゆめはくで出展し、淡路にちなんだ展示や体験プログラムを実施しました。淡路には多様な化石が産出するほか、砂浜に生息する昆虫、アオザメやチリメンモンスターなどの海に関連する生き物も特徴的です。これらの実物標本や模型を展示し、その魅力を研究員が解説しました（写真1）。



写真2 漂着物の採集

翌日は、交流の家に隣接する吹上浜で、地層観察や漂着物を採集するセミナーを実施しました。漂着物のセミナーでは、砂浜にあるものを拾ったのち（写真2）、人工物や自然物などのカテゴリーに分類し、それらの正体を図鑑を使ってみんなで調べました（写真3）。さらに、ラベルをつけて標本にし、箱に入れて「ミュージアムボックス」が完成しました（写真4）。調べて終わりではなく標本にすることで、事後学習での活用が期待できます。

淡路の自然の魅力の紹介や地域の方とじっくり学習する機会を今後も広げていきたいです。



写真3 漂着物を図鑑で調べる

## プロジェクトの今後の展望

来年度以降は、研究員による淡路各所でのセミナーの実施や、地域で関心の高まっているテーマに特化したキャラバンなどを進めていく予定です。また、ひとはくでは、兵庫県下で活躍する市民・団体が、地域の自然・環境・文化に関わる活動の成果を発表し、相互に交流するイベントを10年前から設けています。今後、地域で新たに出会った方々とこのような機会を地域でつくっていけたらと考えています。



写真4 漂着物のミュージアムボックス



ひょうご・ふるさとミュージアムプロジェクト

代表者：上田 萌子

分担者：大平和弘、菊池直樹、鈴木 武、高木 俊、高橋 晃、八木 剛

連携・協力団体：国立淡路青少年交流の家、南あわじ市

財源：生涯学習推進室